

別紙

## 福祉サービス第三者評価の結果

### 1 評価機関

名称：特定非営利法人 環境・福祉事業評価センター	所在地： 長野県長野市南高田2-5-16
評価実施期間： 令和2年9月10日から令和3年1月18日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 050301 B15021 050282	

### 2 福祉サービス事業者情報（令和2年12月現在）

事業所名： （施設名）長野市 綿内保育園	種別：保育所
代表者氏名：市長 加藤 久雄 （管理者氏名）保育・幼稚園課課長 島田 みち代	定員（利用人数）：125（90）名
設置主体：長野市 経営主体：長野市	開設（指定）年月日： 昭和25年 4月 1日
所在地：〒381-0101 長野県長野市若穂綿内6734-3	
電話番号：026-282-2357	FAX番号：026-282-2357
電子メールアドレス：Watauti-hoiku@city.nagano.lg.jp	
ホームページアドレス：http://www.city.nagano.nagano.jp	
職員数	常勤職員： 20名 非常勤職員 9名
専門職員	（専門職の名称） 名 保育士 15名
	園長 1名 看護師 1名
	保育主任 1名 調理員 2名
施設・設備 の概要	（居室数） （設備等）
	乳児室 1室 遊戯室 1室 ほふく室 1室 一時保育室 1室 保育室 6室 屋外遊技場 987㎡ 調理室 1室 事務室 1室 鉄棒 登り棒 滑り台 ジャングルジム

### 3 理念・基本方針

<p>【保育理念】</p> <p>○こどもの健やかな心身の発達を図り、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・児童福祉法に基づき、保育を必要とする子どもを保育することを目的とする。</li><li>・子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進する。</li></ul> <p>【基本方針】</p> <p>○安全で安心できる生活の場を整え、子どもが自己を十分発揮できるようにします。</p> <p>○専門の資格を持った職員が養護と教育を一体的に行い、子どもの発達を援助します。</p> <p>○保護者の気持ちを受け止め、共に子育てをします。</p> <p>○家庭と連携を図りながら、子育ての悩みや相談に応じ助言するなど、地域における子育て支援の拠点として、社会的役割を果たします。</p> <p>○保育を実践するにあたっては、「全体的な計画」に基づき、一貫性を持って子どもの</p>
---

実態に応じた柔軟な保育を展開します。

【長野市綿内保育園の保育目標】

○いってみよう！

○やってみよう！

○あきらめずにチャレンジしよう！

・子どもが自分に自信を持って、自分の気持ちを相手に伝える。

・「やってみようかな」と色々なことに興味を示し体験する。

・うまくいなくてもねばり強くチャレンジする。

#### 4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

【綿内保育園の概要】

綿内保育園は大正15年善法寺住職が季節託児所として開設され、昭和17年5月に私立綿内保育園と改名し通年保育を始めた。昭和25年第1綿内保育園として新築、昭和31年綿内第2保育園を分園、昭和41年第1第2保育園を統合し長野市綿内保育園として開設した。昭和45年山新田保育園を統合し、平成4年園舎を全面改築し、平成12年一時保育事業を開始した。

高速道路開設前はのどかな田園地帯であったが近年住宅化が進み園舎周辺の景観も大きく変わってきている。農村部であるが、核家族化、共働き家庭も増え、長時間保育や一時預かり保育の利用も急増している。園の近くには天王山やめだか池、神社、公園があり自然環境に恵まれている。道路を挟んで南側に綿内小学校がある。また北隣には綿内児童センターと公園があり公共施設が集まっている。

定数125名の中規模保育園であり、0歳児3人、1歳児8人、2歳児14人、3歳児16人、4歳児28人、5歳児以上21人の90人となっている。ひよこ組(0歳児)、うさぎ組(1歳児)、ぱんだ組(2歳児)、ばなな組、めろん組、いちご組(3・4・5歳)としてクラス編成されている。また幼児チームとして年少(みずいろ)、年中(あか)、年長(きみどり)の3チームに編成され3・4・5歳は異年齢保育を実施している。乳児や、障がい児を受け入れており、一時預かり保育の指定園になっている。園開放(おひさま広場)で6月から2月まで毎週木曜日に未就園児を対象に開催している。また、核家族、共働きが増え長時間保育や一時預かり保育の利用が増えている。

職員配置も充実している。保育士15名、非常勤保育士が9名、看護師が新規に1名常勤しており健康支援、事故防止やけがや病気、アレルギーの対応や保護者への対応をしている。また新型コロナウイルス等の感染症対応をしている。

【綿内保育園の特徴的な取り組み】

自然とのふれあいが充実している。

平成29年に「信州やまほいく(信州型自然保育)」の認定を受けている。田園地帯が残る豊かな自然環境の中で、天王山、めだか池、田んぼのあぜ道、神社への散歩等自然を取り入れた保育を行っている。職員も園内研修による学びを深めている。広い園庭の中に地域特産のレンコンの栽培、サツマイモ栽培の畑がある。カメの飼育、綿内名物のレンコンの葉を使用したレンコンシャワーなど自然の中で五感を十分に働かせ、子ども自身が発見し考えて試して遊ぶことを大切にしている。

特色ある異年齢保育を行っている。

クラスに関係なく、15年ほど前から3年齢児いっしょの異年齢保育を行っている。その保育を納豆にたとえ、大豆一粒一粒の顔が見え、ねばねばと子どもや保護者、地域の方とつながっていけるように「なっとう保育」と名付け、毎日元気いっぱい、のびのびと遊んでいる。年上の子には憧れの気持ちを持ち、年下の子には思いやりの気

持ちを持つなど、異年齢の関わりを大切にしている。

地域との交流を積極的に行っている。

「子どもは地域の宝」として地域全体で子どもたちを大事に見守っている。地域の名産である綿内れんこんを10年ほど前から地域の方に協力してもらい、園庭で育てている。地域の方による絵本の読み聞かせボランティアや若穂デイサービスと愛ランド綿内グループホームの地域のお年寄りとの交流や小学校など地域の方との交流を積極的に行っている。

子育て支援の実施している。

「おひさま広場」(園開放)は6月～2月までの毎週木曜日園開放されている。また、通常年度では夏祭り、絵本の読み聞かせ、運動会等の公開行事へ地域の方の参加を呼び掛けている。未就園児の保護者を対象に園の保育士や看護師による子育て相談、一時預かり事業や親支援が必要な家庭の支援を行っている。

## 5 第三者評価の受審状況

受審回数(前回の受審時期)

2回(平成30年度)

## 6 評価結果総評(利用者調査結果を含む。)

特に良いと思う点

(1) 新型コロナウイルスの感染症に組織全体で取り組んでいる。

新型コロナウイルスの感染防止について集団発生防止のため園全体で取り組んでいる。看護師が1名新規に常駐している。園長を中心に保護者、職員、園児に関する感染症対策に取り組んでおり、保護者の安心に繋がっている。毎朝保護者から、園児の検温と健康観察の記録を登園時に確認し、職員で共有し、登園後は活動に移る前に手洗い、職員も出勤後手洗いのあと業務に移っている。職員は業務中マスクを着用し、各保育室にアルコール消毒を設置、食事はテーブルを離し、園児とは別の場所や時間をずらしている。また、保育室、事務室、給食室の換気を定期的に行っている。これらの感染症防止については全ての職員に共有されている。行事については回数を分散する等の変更となっているが「保育及び教育の全体的な計画」が達成できるよう工夫して努力している。保護者が参加できない行事については保護者に園児を玄関で引き渡すため玄関先での写真の掲載や職員全員の顔写真を工夫して掲示している。また保護者アンケートから園長、主任、職員が積極的に園児の登園やお迎え時に園外で保護者に挨拶している姿が保護者に支持されている。これらの取り組みは保育園全体で行われている。職員の負担も増えているが、職員の感染予防や保護者との信頼につながっており特に良い点として評価できる。

(2) 異年齢保育が充実している。

綿内保育園では、ひよこ組(0歳児)、うさぎ組(1歳児)、ぱんだ組(2歳児)、ばなな組、めろん組、いちご組(3・4・5歳)としてクラス編成されている。また幼児チームとして年少(みずいろ)、年中(あか)、年長(きみどり)の3チームに編成され3・4・5歳は異年齢保育を実施している。2020年度の事業計画の重点課題として「異年齢の友達との関わりの中で育つ保育」とし全体的な計画の中で「保育目標」と整合性を持って異年齢保育を計画し実施している。10月の園だよりでも運動会での異年齢の同じクラス子どもを応援するなどの事例が紹介されている。結果として異なる年齢の子どもと接することで年上の子には憧れの気持ちを持ち、自分よりも年下の子どもの思いやりの気持ちを持って接することができお互いに学べ、違う年齢の友達と仲良くすることによって、友達の幅が広がり、年齢に関係なく友達を作ることができ、その中で、遊びの楽しさやルールを体験しさまざまな遊びを身につけられるよう工夫している。保護者アンケートでも異年齢保育について保護者の理解が得られ子どもの発育や意欲を促すような活動・遊び等が行われており子どもにすごく良い影響を受けており、家でも下の子に優しくできていると評価している。1人の子どもに対しクラス担任と異年齢クラス担任を配置、複数の保育士が関わっている特色がある。約15年前からこの異年齢保育に取り組んでいる伝統があり異年齢保育の充実は特に良い点として評価できる。

(3) 自然とのふれあいを生かした保育に取り組んでいる。

園児の笑顔があふれており、保護者利用者アンケートでも満足度が高く総合的感想では「たいへん満足している」が35%、「満足」が48%、「どちらかといえば満足している」が10%で合計93%の方が満足している回答となっている。重点課題として「綿内保育園の周りの自然を生かした保育」を掲げている。自然豊かな地域であり、平成29年に「信州やまほいく(信州型自然保育)」の認定を受け

ている。田園地帯が残る豊かな自然環境の中で、天王山、めだか池、田んぼのあぜ道、神社への散歩等自然を取り入れた保育を行っている。職員も「やまほいくの理念や野外保育の危険」等の園内研修による学びを深めている。広い園庭の中に地域特産のレンコンの栽培、サツマイモ栽培の畑がある。カメの飼育、綿内名物のレンコンの葉を使用したレンコンシャワーなど自然の中で五感を十分に働かせ、子ども自身が発見し考えて試して遊ぶことを大切にしている。

園舎は木材をふんだんに使用した自然豊かな内装になっており、敷地も広く、畑や砂場が確保されておりゆとりある施設環境が整っている。プールは固定式で広いものになっている。れんこん作りやさつまいも作りでは地域の方との交流があり、保護者との関係も良好である。自然豊かな環境、ゆとりある園舎の環境を生かした保育が行われており、保育のサービスの質の向上に繋がっていることが特に良い点として評価できる。

(4) 地域との関わりを大切にされた保育に取り組んでいる。

伝統的に綿内地区を中心に地域住民は綿内保育園に対し深い愛着を持っている。また、園児もこの地区の出身が多い。「子どもは地域の宝」として綿内地区の神社のお祭りや綿内駅での遊び等地域全体で子どもたちを大事に見守っている。重点課題として「地域のお年寄り、小学校など、沢山の方々との関わりを積極的に行う。」を掲げており、地域の方による絵本の読み聞かせボランティアや若穂デイサービスや愛ランド綿内グループホームの地域のお年寄りとの交流や若穂小学校など地域の方との交流を積極的に行っている。また、クラスに関係なく、15年ほど前から3年齢児いっしょの異年齢保育を行っている。その保育を納豆にたとえ、大豆一粒一粒の顔が見え、ねばねばと子どもや保護者、地域の方とつながっていけるように「なっとう保育」と名付け、毎日元気いっぱい、のびのびと遊んでいる。特に地域特産のれんこんの栽培やさつまいも作りは、地域の方が積極的に協力している。特に区長さんは地域の情報を積極的に提供してくれている。若穂消防分署による火災訓練や綿内駐在所等の協力体制ができています。園の南側の交通量の多い道路にガードレールを設置が計画されるなどの成果がある。地域の関係組織と連携し関わりを大切に保育に取り組んでいることは特に良い点として評価できる。

特に改善する必要があると思う点

(1) 保育サービスでの情報技術等の活用

保育園では、現在パソコンを利用した業務やセキュリティを考慮した情報システムがある。保育園の職員の勤務については、働き方改革に関連する勤怠やシフト、休暇等についてはIT(情報技術)やICT(情報通技術)(以下情報技術等)を利用した取り組みが進んでいる。一方保育業務である月案、週案、日案、保育の計画、午睡チェックについては手書きによって作成されている書類が多く見受けられる。事務管理でのヒヤリハット管理、事務日誌、保護者連絡の連絡帳についても手書きで行われている場合が多い。手書きについては誰でも簡単に特に設備の必要もなく記録することができ、図等は手書きによるものは理解しやすい長所がある。一方保育士の働く時間については保育サービスの向上では園児とのコミュニケーションや研修にかけることが益々求められている。保育の記録については午後の午睡の時間を中心に作成されている。保育サービスの中で利用できる情報技術等を利用した取り組みを更に進めることで保育の記録作業時間が減りより保育の中核業務に専念できる時間が増える環境になることを希望する。予算の関係もあるが保育士が利用できるパソコン等の機器の充実、情報技術等の活用を進める上での専門家の育成、導入するソフトウェアの検討、保護者連絡網では保護者主催のメール配信の充実を期待する。

(2) 災害時における安全確保の取り組みの定期的な見直し

綿内保育園では散歩における危険個所の確認をするなど定期的にリスクを低減する活動を行っている。長野市では昨年の台風19号の災害で、堤防の決壊等により浸水の被害を受けた保育園があった。園では、火災発生、地震発生、風・水害、土曜日・時間外保育時における危機管理マニュアル、災害時における停電時の対応や灯油流出対応についてマニュアルが整備されている。また、非常食の備蓄や避難訓練や消火訓練、通報訓練等各種防災訓練が行われている。避難場所は運営規定で定められており火災発生の第2避難所は綿内小学校、風・水害は若穂中学校となっている。訓練は様々の想定で行われているが水害等での避難場所に定められている若穂中学校への避難の誘導や保護者への連絡や引き渡し等の課題がないか、緊急の場合は綿内小学校や園の2階への避難は可能であるか等他の保育園の水害の経験を活かし定期的に見直すことを期待する。また、園では停電になった場合の携帯やFAX等を利用するためのポータブル電源の確保ができることを希望する。更に長野市においては地震等の災害について具体的な震度想定による被害を予想した対策として事業継続を確実にするための長野市業務継続計画(BCP)震災編が策定されている。保育園についても被災した後の保育施設をいち早く運営再開するための独自の事業継続計画(BCP)の策定(電気やトイレの使用ができない場合や職員の出勤が困難な場合等)を今後検討することを期待する。

7 事業評価の結果（詳細）と講評  
共通項目（別添１）  
内容評価項目（別添２）

8 利用者調査の結果  
アンケート方式の場合（別添３ - １）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添４）  
（令和３年１月８日記載）

これまで全職員で各種マニュアルの確認、長野市の保育理念や基本方針を基に園目標や計画に沿った保育が進められているか、園内外の環境設定について園内研修を重ね、職員の意識・保育の質の向上につなげてきました。今回、第三者評価受審により、成果と課題を明確にすることができました。

特に良い点にあげていただいた「新型コロナウイルス感染防止に組織全体で取り組んでいること」「異年齢保育の充実」「自然との触れ合いを生かした保育の取り組み」「地域との関わりを大切にされた保育の取り組み」については今後も更に伸ばし、努力して継続していきます。改善を必要とする「保育サービスでのICT技術の活用」「災害時における安全確保の取り組みの定期的な見直し」は職員で話し合いや研修を積み重ね、自園だけでは解決できないことは保育・幼稚園課の指導を受けながらできることから取り組んでいきます。

保護者の皆様には、お忙しい中アンケートにご協力いただき、心温まるお言葉や、改善を望まれるご意見をいただきありがとうございました。また、環境・福祉事業評価センター様には自園の良い所や改善点を示していただきありがとうございました。

職員一丸となり今後も子ども達の為に、よりよい保育を目指し努めていきたいと思っております。